

まちづくり交付金 事後評価シート
大谷地区

平成21年12月

静岡県静岡市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	静岡県	市町村名	静岡市	地区名	大谷地区		面積	105ha
交付期間	平成17年度～平成21年度	事後評価実施時期	平成21年度	交付対象事業費	5,880百万円	国費率	0.413	

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名					
	基幹事業	緑地整備、耐震性貯水槽設置事業、海岸線防潮防風柵設置事業、排水路整備事業、大谷土地区画整理事業						
	提案事業	安全市街地形成事業						
			事業名	削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
	当初計画から削除した事業	基幹事業	電線類地中化事業	地区外の下大谷線整備と一体的に実施を検討することとしたため削除		影響なし		
		提案事業	なし	-		-		
	新たに追加した事業	基幹事業	下大谷線整備、池の谷公園整備、(仮称)巴川流域治水交流センター建設	まち交期間内への事業の前倒し		(仮称)巴川流域治水交流センター建設:指標の数値を上方修正		
提案事業		なし	-		-			
交付期間の変更		当初	-	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-		
		変更	-					

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	地区内住民等の環境に対する満足度	%	15	H16	70	H21	44.9	44.9	△	あり なし ●	狭隘道路の解消や老朽家屋の建替え促進により、住民満足度は大きく向上したが、事業の未完成による憩いの場の不足等により、目標値には達しなかった。	平成22年10月
指標2	老朽家屋建替による住宅の耐震化戸数	戸	160	H16	320	H21	303	393	○	あり なし	土地区画整理事業の進捗及び安全市街地形成事業により、新築による移転補償が進展し、目標値を上回った。	平成22年10月
指標3	緊急自動車の進入不能道路の率	%	30	H17	10	H21	7	0	○	あり なし	土地区画整理事業の進捗により、狭隘道路の解消が進み、目標値を上回った。	
指標4	コミュニティの形成	参加人数	360	H17	1,440	H21	1,080	1,393	△	あり なし ●	土地区画整理事業を契機としてまちづくりに対する意識が高まり、その結果、まちづくり活動への参加者は増加した。今後は交流センターの活用により参加者はさらに増加すると考えられる。	平成22年10月

3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1	地域道路に対する不満度	%	73.6	H16				26.6			区画整理事業の進捗によって生活道路網が構築されつつあり、不満回答は大きく減少した。	平成22年10月
その他の数値指標2		%										
その他の数値指標3												

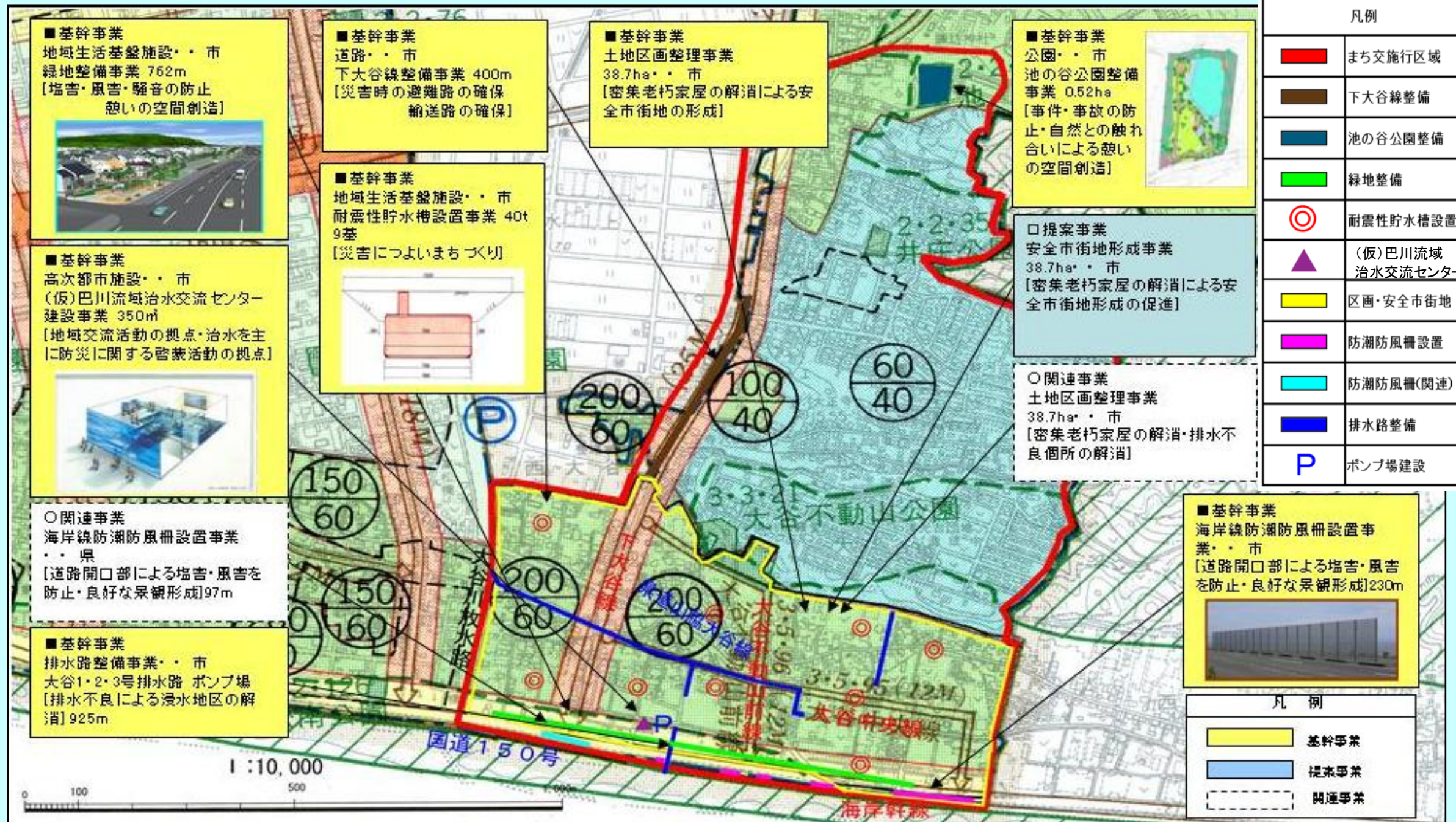
4)定性的な効果発現状況
 ・従後アンケートの自由意見を整理すると、コミュニティ形成に係る意見の件数が最も多く、まちづくり交付金事業を通じて、まちづくりに対する住民意識の高まりがみられる。
 ・また、土地区画整理事業の進捗に伴い、新しいまちづくりへの希望・期待が多数みられるなど、今後のまちの課題を住民自身が認識するようになった。

5)実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等
	実施内容	実施状況	実施状況	今後の対応方針等	
モニタリング	交付期間中(中間期)に統計書及び実績によるモニタリング 地権者、審議会委員、施行者による三者会議 評価委員会 交付期間中(中間期)に統計書及び実績によるモニタリング	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	中間期における達成状況を確認することができた。	
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			
住民参加プロセス	地権者、審議会委員、施行者による三者会議 評価委員会	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	住民と施行者との意見集約の場として今後も継続する。	
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			
持続的なまちづくり体制の構築	地権者、審議会委員、施行者による三者会議 評価委員会に参上して頂いて、もらいたいだけどいかなものか。	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	土地区画整理事業完了後も新たな活動組織の母体として、更なる発展を期待する。	
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			

様式2-2 地区の概要

大谷地区(静岡県静岡市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	従前値	評価	目標値	評価	総合評価	達成度
各種施設整備や面的整備を総合的に推進し、良好な生活環境と誰もが安心して暮らせる居住空間の形成を図り災害に強いまちづくりを目指す。 目標①:誰もが安心して暮らせる災害に強いまちづくり 目標②:住民主体のまちづくりの展開によるまちの再生	地区内住民等の環境に対する満足度	単位:%	15	H16	70	H21	44.9	H21
	老朽家屋建替による住宅の耐震化戸数	単位:戸	160	H16	320	H21	393	H21
	緊急自動車の進入不能道路の率	単位:%	30	H17	10	H21	0	H21
	コミュニティーの形成	単位:参加人数	360	H17	1,440	H21	1,393	H21



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 区画整理事業開始前からある老朽家屋の建替が進んだ。交流センターの建設により、防災コミュニティー拠点としての活用が期待される。 緊急自動車が侵入できない狭隘道路がなくなり、災害に強い居住環境が整備された。 満足度については数値目標に達しなかったが、狭隘道路、老朽家屋、排水不良の不満から、緑地・公園等の憩いの場所への要望への変化が見られた。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 土地区画整理事業及びその他の事業によって整備された都市施設の機能を維持するため、適切な管理を行うとともに、道路・公園など住民に身近な施設については清掃活動など住民協力の協力を求める。 土地区画整理事業によって整備された都市基盤の効果を活用するため、今後も適切な街並みの形成を図る。 現在施行中の土地区画整理事業の早期完了や災害時の避難路・輸送路となる(都)下大谷線等の全線整備に向けて事業推進を図り、本地区の都市基盤を確立する。 コミュニティ形成を通じて共助関係の醸成を図り、災害時の避難行動など、自然災害に対する不安を軽減するとともに、まちづくり活動の活性化を図る。